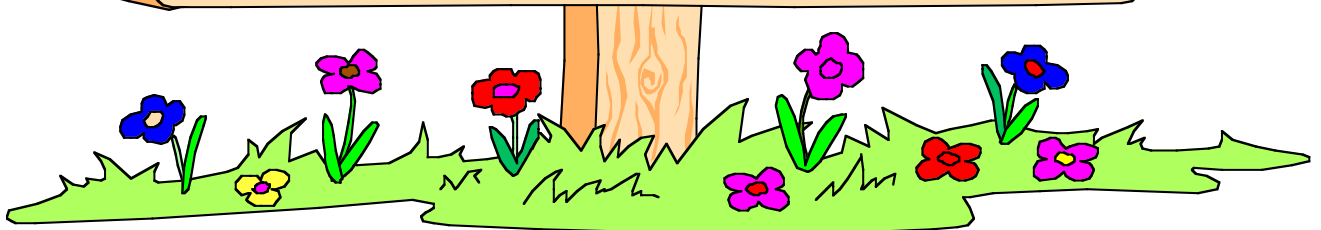




いっしょに 考えてみませんか

洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会）
中小病院委員会からのお知らせ

- 『中小病院懇話会—より信頼される
薬剤師をめざして—』のご案内
- リスクマネジメントについて
考えてみませんか？
— その7 —



Vol. 10

2002年11月号

●中小病院懇話会開催のお知らせ

来る、平成14年11月26日(火曜日)、および平成14年12月3日(火曜日)に、中小病院懇話会を開催いたします。

今回は、『より信頼される薬剤師をめざして～薬歴について考えてみませんか2～』と題して、平成14年11月26日(火曜日)は三菱化学病院にて、平成14年12月3日(火曜日)は株式会社アステム行橋支店にて開催いたします。

さて、前回の中小病院懇話会では、『発行される全ての処方箋、注射箋に関して薬歴(投薬記録・服薬指導記録)を継続して記録していくことは薬剤師の責務である』という視点から、薬剤師が患者さんに処方された医薬品を記録し管理することの意義について、皆さんと充実した意見交換ができました。

その中で、『服薬指導や薬物相互作用のチェック、副作用への配慮、処方内容に関する医師との意見交換など、薬剤師が行う業務では、患者さんの投薬記録を正しく把握しておくことが必要不可欠である。薬歴を管理することは、患者さんへ投与された医薬品の内容を正しく把握することにある』ということが再認識できました。

しかしながら、この薬歴管理には、病床数の大小にかかわらず、参加していただいたどの施設も多大な時間を費やしているという現実も直視できました。また、『効率的に薬歴を管理するにはどうすればいいのか？ どのような内容を記録していけばいいのか？』という、みなさんの切実な悩みを実感することができました。薬歴管理にPOS(Problem Oriented System)を導入することの有用性についても、改めて実感できました。

そこで、今回の中小病院懇話会では、再度、薬歴を管理するということについて考えます。特に、POS(Problem Oriented System)に焦点をあて、皆さんといっしょに考えていきたいと思えます。

第29回中小病院懇話会(於：三菱化学病院)では、薬歴の持つ意味について再認識し、POSの基礎について共に学び、POSでの記載例を提示し、みなさんと意見交換を行いたいと思えます。また、第30回中小病院懇話会(於：アステム行橋支店)では、POSの概念を取り入れた効率的な薬歴簿の作成について、事例を紹介しながら、みなさんといっしょに考えていきます。

患者さんが安心して医療を受けることができるために、私たち薬剤師がすべきことを、いっしょに模索してみませんか。



●リスクマネジメントについて考えてみませんか？

— その7 —

中小病院委員会では、医療におけるリスクマネジメント活動の中で、私たち薬剤師がどのように関わっていけるかについて、情報誌『いっしょに考えてみませんか』の中で、様々な事例を提案してまいりました。今回は、リスクマネジメントの実践という視点から少し離れてしまうかもしれませんが、医療に携わる者としての『姿勢』や『モラル』について考えてみたいと思います。

この半年の間にも、様々な医療事故や調剤事故が報道されました。中には故意に行われたと思われるものや、犯罪の匂いがするものまで、今まで報道されていた事例とは明らかに異質な事例が存在しました。これらの報道を耳にし、目にする度に、被害にあった患者さんのお気持ちを考えると、筆舌に尽くしがたい思いで一杯になります。リスクマネジメントの重要性がこれほどまでに世間で叫ばれている中、なぜ、このような事故が発生するのかが不思議でなりません。

このような状況の中、いま一度、リスクマネジメントについて考えてみました。私達に欠けている物があるとするならばいったいそれは何なのか？ リスクマネジメント活動にどんなに真剣に取り組んでも、医療事故が無くなることはないのか？ と自問自答していました。

そんな中、ふと気づいたことがありました。報道される航空業界の事故発生頻度と比べると、医療に関する事故報道の頻度が明らかに高いと感じたのです。こう感じるのは、私達だけではないと思います。

情報誌『いっしょに考えてみませんかVol.5』において『JAS CRM』について取り上げた際、『「航空に携わる者にとって事故を起こさないことは至上命題である」という考えは、私たち医療従事者にとっては、「医療に携わる者にとって事故を起こさないことは至上命題である。医療事故を起こすことは患者さんの死と直結している」と言い換えることができます。つまり私達も航空業界と同じ立場にあるのです。様々な職種が関わって、人の命を預かっているのです』とお伝えした事を思い出しました。

もしも私達に欠けている物があるとするのなら、それは、『命の尊さ』を実感できる心ではないのかと思えたのです。

私達薬剤師の業務は多忙です。時間に追われながら業務をこなし



ているのが実情です。ともすれば、私達が扱う『薬』を単なる『物』として捉えてしまうことはないでしょうか。私達が扱う『薬』は正しく使わない限りそれが『毒』に変わってしまうという危険性をはらんでいることを忘れてしまうことはないでしょうか。日々の業務に追われてしまい心の余裕をなくすことは、現実としてあると思います。もしかすると、そんな時に、エラーを起こしてしまうのかもしれない。

例えば、処方箋を調剤する際、その患者さんの顔を思い浮かべ、『自分が調剤した薬を服用し、少しでも早く良くなって欲しい』と祈りながら業務を行うことはできないでしょうか。これは、信仰という崇高なものを言っているのではありません。親が子供の健康を心から祈る無償の愛と同じ気持ちを抱きながら、調剤することはできないでしょうか。調剤に限らず他の業務でも、素直な気持ちで、『元気になってほしい』と願いながら、業務に携わることはできないでしょうか。もしそれができれば、『薬』を『毒』ではなく『命あるもの・良薬』に変化させ、ひいては医療事故防止に繋がっていくのではないのでしょうか。小さなエラーが発生しそれが未然に防げた時に、『これくらいのことで言われるなんて…』という憤りの感情が残るのではなく、『大きなミスに繋がらなくてよかった』と素直に思えるようになるのではないのでしょうか。それが日常的に可能となれば、リスクマネジメントが充実されていくのではないのでしょうか。

今回のお話は、皆さんにとっては、わかりきったことかも知れませんが、わかりきっている事ですが、同時に、これは、決して忘れてはならない事だと思えます。どんな状況でも、人を思いやる優しい心を忘れずにいることが、私達医療に携わる人間の使命ではないのでしょうか。

いつも、笑顔に満ちた心優しい薬剤師でいれればと願います。心から愛情を込めて『おだいじに』と暖かく伝えることができる素敵な薬剤師でいれればと思えます。

編集：洞薬会中小病院委員会

| | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| 九州労災病院 | 大和正明 | 北九州市立門司病院 | 片山 巖 |
| 北九州市立総合療育センター | 井上和啓 | 町立芦屋中央病院 | 筒井浩陽 |
| 三菱化学黒崎事業所附属病院 | 池田美幸 | 香林会香月中央病院 | 森友英治 |
| 佐々木病院 | 佐々木洋子 | みどり十字行橋厚生病院 | 永友英雄 |

本誌の内容へのご意見、ご質問は、北九州市立総合療育センター
井上和啓（☎:922-5596）までお寄せ下さい。